

《報告》

日本の家族介護者がもつ「介護しなければならない」意識 に関する一考察

濱本律子¹⁾, 星野純子^{1,2)}, 杉山晃子²⁾, 鈴木岸子²⁾, 齋藤文子¹⁾,
土屋裕美¹⁾, 中神友子¹⁾, 堀容子³⁾

¹⁾ 相山女学園大学看護学部看護学科, ²⁾ 名古屋大学大学院医学系研究科, ³⁾ 名古屋大学医学部保健学科

要 旨

家族介護者がもつ意識は、社会的背景に強く影響を受ける。そこで本稿は、社会的背景に着目して近世から現代に至るまでの家族介護者がもつ「介護しなければならない」意識について文献的に概観した。現代あるこの意識は、近世・近代からの「家族」や「家」の捉え方に強く影響を受けていると考えられ、3種類に整理された。1つは、『家族への想いによる介護しなければならない』意識であり、2つは、『家意識の存在による介護しなければならない』意識、3つは、『社会制度の不備による介護しなければならない』意識であった。家族介護者がもつ「介護しなければならない」意識について社会的背景を含めて理解することは、今後、家族介護者支援の一助となすことが期待できる。

キーワード：家族介護者 介護しなければならない意識 文献的考察